

職場の建物の6階から外を眺めると、まず視界いっぱいに広がるのは、手前に咲き誇る満開の桜です。淡いピンクの花が幾重にも重なり、まるで街の上にやわらかな雲がたなびいているかのようです。風が吹けば、花びらが静かに揺れ、その一瞬一瞬が春の息づかいを感じさせてくれます。

その桜の向こうに、ひときわ印象的なシルエットを見せているのが、関口にある東京カテドラル聖マリア大聖堂の鐘楼です。鋭く天を指すその形は、都会の中にながらどこか静謐な雰囲気漂わせ、周囲の風景を引き締めています。無機質なコンクリートの造形でありながら、春のやわらかな光に包まれることで、どこか温かみさえ感じられます。

さらに遠くへ視線を伸ばすと、NTTドコモ代々木ビル、いわゆるドコモタワーが霞の向こうにそびえています。東京を象徴する高層建築の一つであり、その堂々とした姿は、都市のスケールの大きさを改めて実感させます。近景の桜、中景の大聖堂、遠景の高層ビルという重なりが、この風景に奥行きとリズムを与えています。



こうして見ると、東京という都市は、自然と建築、歴史と現代が見事に共存していることがわかります。満開の桜のやわらかさと、直線的な建物の対比が、春という季節の中で一つの調和を生み出しています。このような美しい景色を、日常の延長として職場から眺めることができるのは、何とも贅沢で、そして素晴らしいことだと感じます。